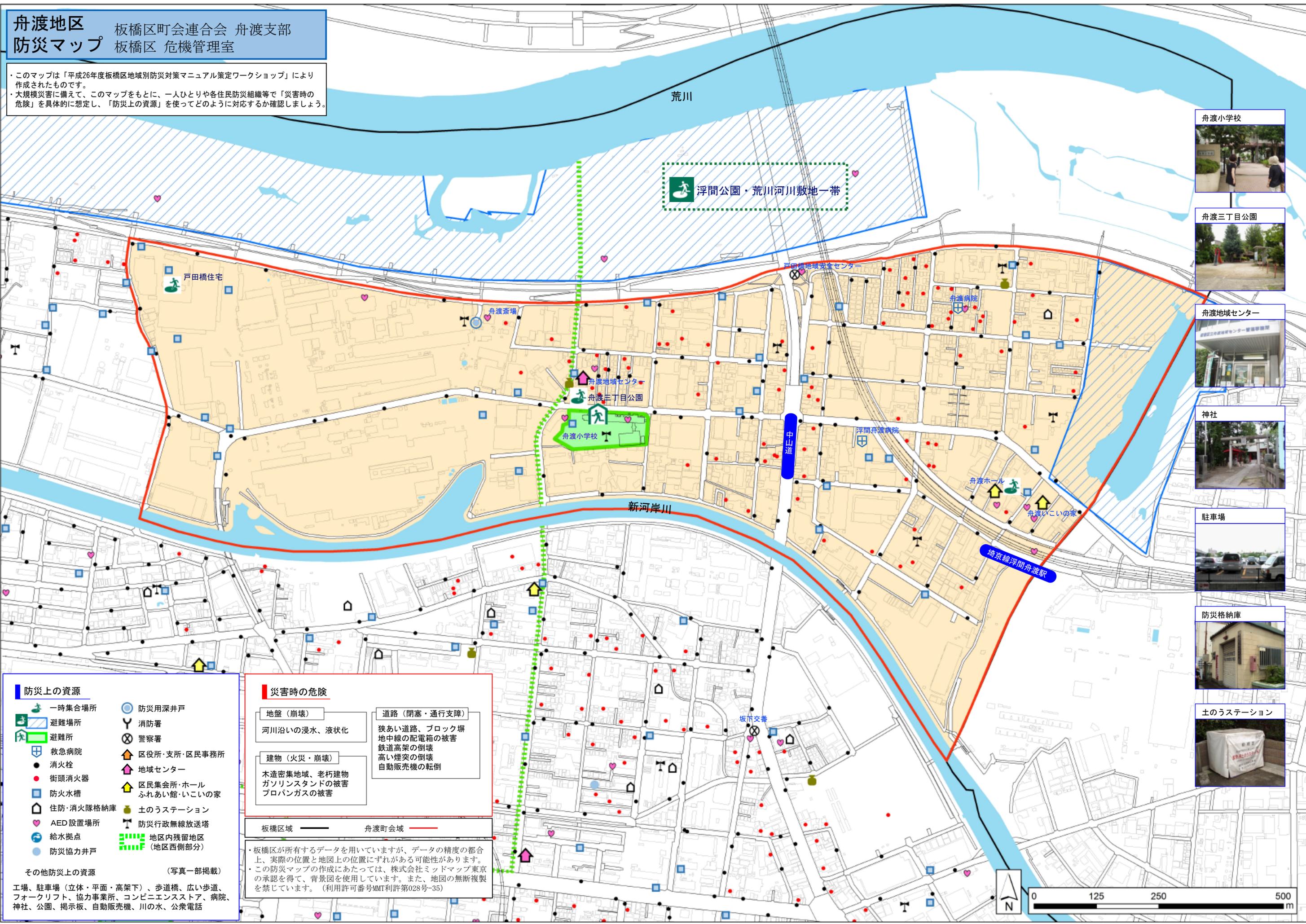


舟渡地区 防災マップ

板橋区町会連合会 舟渡支部
板橋区 危機管理室

・このマップは「平成26年度板橋区地域別防災対策マニュアル策定ワークショップ」により作成されたものです。
 ・大規模災害に備えて、このマップをもとに、一人ひとりや各住民防災組織等で「災害時の危険」を具体的に想定し、「防災上の資源」を使ってどのように対応するか確認しましょう。



防災上の資源

- 一時集合場所
- 避難場所
- 避難所
- 救急病院
- 消火栓
- 街頭消火器
- 防火水槽
- 住防・消火隊格納庫
- AED設置場所
- 給水拠点
- 防災協力井戸
- 防災用深井戸
- 消防署
- 警察署
- 区役所・支所・区民事務所
- 地域センター
- 区民集会所・ホール
- ふれあい館・いこいの家
- 土のうステーション
- 防災行政無線放送塔

その他防災上の資源 (写真一部掲載)

工場、駐車場(立体・平面・高架下)、歩道橋、広い歩道、フォークリフト、協力事業所、コンビニエンスストア、病院、神社、公園、掲示板、自動販売機、川の水、公衆電話

災害時の危険

地盤(崩壊)

河川沿いの浸水、液状化

道路(閉塞・通行支障)

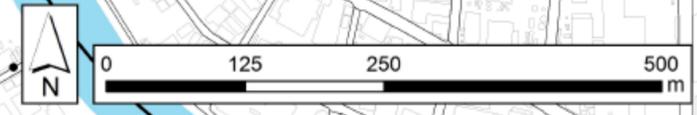
狭い道路、ブロック塀
地中線の配電箱の被害
鉄道高架の倒壊
高い煙突の倒壊
自動販売機の転倒

建物(火災・崩壊)

木造密集地域、老朽建物
ガソリンスタンドの被害
プロパンガスの被害

板橋区域 ——— 舟渡町会域

・板橋区が所有するデータを用いていますが、データの精度の都合上、実際の位置と地図上の位置にずれがある可能性があります。
 ・この防災マップの作成にあたっては、株式会社ミッドマップ東京の承認を得て、背景図を使用しています。また、地図の無断複製を禁じています。(利用許可番号MMT利許第028号-35)



舟渡地区の地域特性

(出典一覧:①ミッドマップ東京1/2500地形図 ②③首都大地震揺れやすさマップ2013年旬報社 ④板橋区都市計画マスタープラン ⑤H25.4板橋区用途地域図 ⑥～⑧H23東京都土地利用現況調査 ⑨～⑪H22板橋区国勢調査)

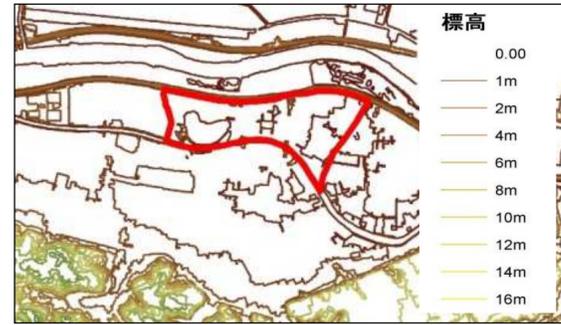
はじめに

舟渡地区の地域特性について、地盤、建物、人口属性の分布を地図にあらわしました。これらをもとに、地図上で大規模災害時の被害を想定して応急対応を検討しましょう。

(地域の被害想定図の作成例)



①地形



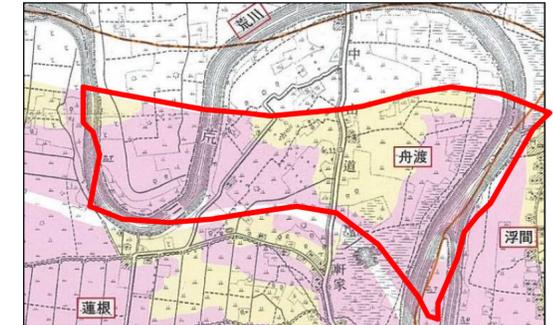
舟渡地区の標高は2m～6mであり、高低差はほとんどない。

②土地条件図



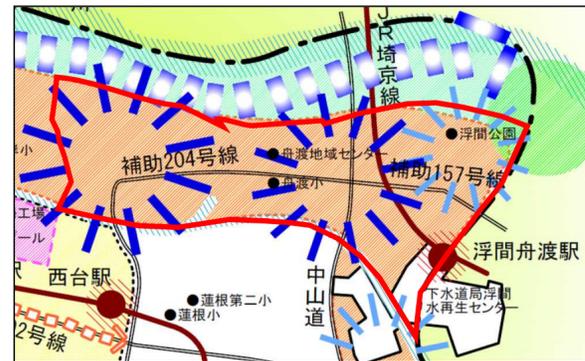
荒川と新河岸川に挟まれた地区であり、盛土地・埋立地が広がっている。

③旧版地図・地盤の揺れやすさ評価



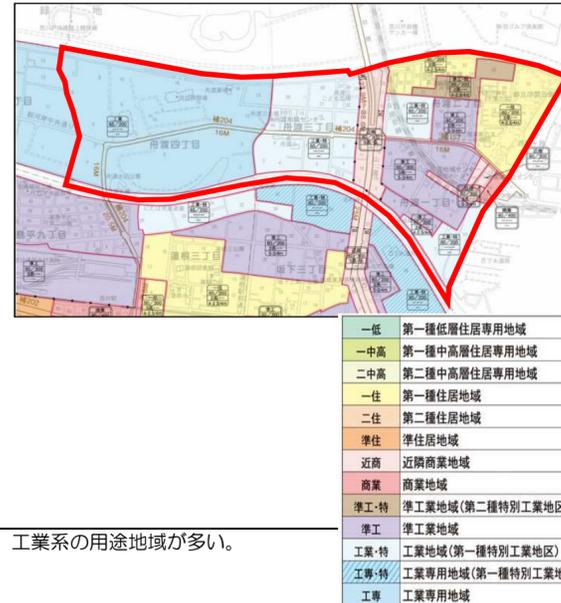
盛土地・埋立地の揺れやすさが「大」であり、自然堤防は「やや大」である。

④土地利用-都市基盤



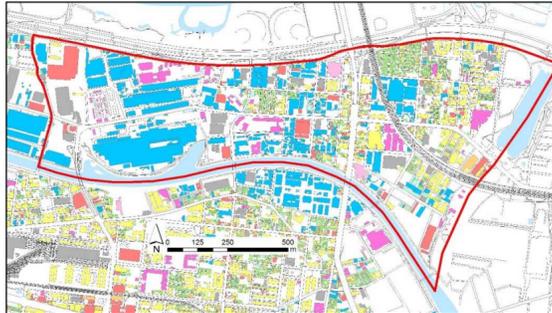
幹線道路、鉄道の利便性はやや良い(国道17号、補助157号線、補助204号線、埼京線等)。
浮間公園、舟渡水辺公園などが整備されている。

⑤土地利用-用途地域



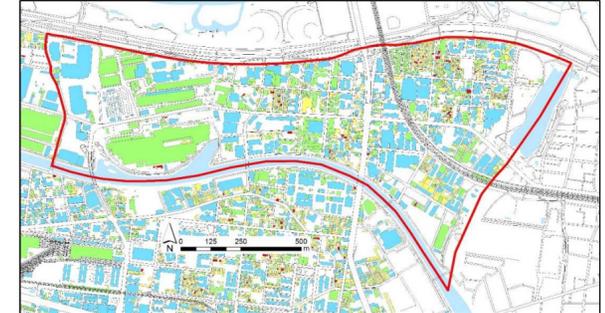
工業系の用途地域が多い。

⑥建物属性-建物用途



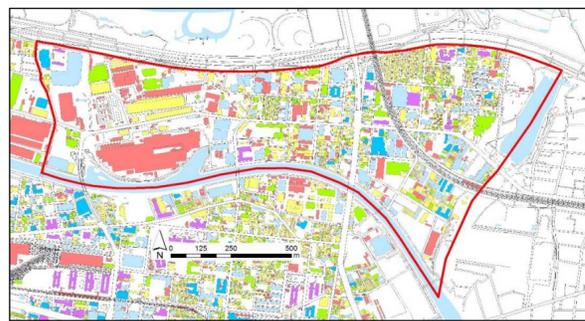
建築面積割合は工場が多く、棟数割合では独立住宅が多い。

⑦建物属性-建物構造



棟数割合では、準耐火造、防火造が約8割を占める。

⑧建物属性-建物階数



棟数割合では、1、2階建の建物が約8割を占める。

⑨人口属性-65歳以上の高齢者率(町丁目別)



高齢者率(65歳以上)は、区平均(21%)またはそれより低い傾向にある。

⑩人口属性-65歳以上の高齢者がいる世帯割合(町丁目別)



65歳以上を含む世帯の割合は、区平均(29%)より低い傾向にある。

⑪人口属性-昼間人口指数(町丁目別)



昼間人口指数(夜間人口を100とした場合の昼間人口)は、区平均(92)より高く、特に工場が多い舟渡四丁目は特に高い。